



Title	「文化」の解説（25）：文化と情報 はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト．2025, 2024
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102187
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

はしがき

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは、言語文化共同プロジェクトが誕生した 2000 年に発足した。25 年目となる 2024 年度は、「文化と情報」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

四半世紀になるということで、これまでの副題をすべて挙げさせていただく（丸数字は号数）。①文化の意味作用について、②〈文化空間〉の政治学、③文化の政治性／政治の文化性、④文化批判の機能をめぐって、⑤文化生産の諸相、⑥文化受容のダイナミクス、⑦システムとしての文化、⑧想像力としての文化、⑨文化とアイデンティティ、⑩文化と身体、⑪文化とトポス、⑫文化と歴史／物語、⑬文化とコミュニティ、⑭文化と公共性、⑮文化と翻訳、⑯文化と権力、⑰移動と衝突の文化現象、⑱神話的なものとその解体、⑲文化とメディア、⑳文化と記憶、㉑文化と伝統、㉒文化とイデオロギー、㉓文化とコミュニケーション、㉔文化と環境、㉕文化と情報。

今回収録した 3 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、松尾芭蕉の俳諧文学と彼の美学的理想が、中国の初期道教における概念や思想と結びついており、そこでは「無常」「旅」「かるみ」といったテーマが中心的な役割を果たしていることを、具体的なテキスト例にもとづいて示している。山本論文は、ナチ映画の同時代の外国での受容にかんして、連合国の一員としてドイツと戦争をすることになるアメリカ、中立国でドイツ語人口の多いスイス、枢軸国の一員としてドイツと同盟関係になる日本の例を比較している。津田論文は、「2023 年の村上春樹の新作長編小説『街とその不確かな壁』における二つの世界とそれを隔てる「不確かな壁」の性質を考察し、現実と幻想、生と死、内面と外界といった二つの世界の交錯や融合がマジック・リアリズム的な手法で描き出されていることを明らかにしている。

前号の「はしがき」にも書いたが、本プロジェクトのように、型にはまらずに執筆することのできる媒体は、とりわけ文化研究のような分野においては、自由で豊かな発想を育み、スケールの大きな成果を生みだすための貴重な場であると考えている。「〈文化〉の解読」プロジェクトを今後も粘りづよく継続していきたい。

2025 年 5 月

執筆者一同